

私たちの「仲間たち」

284

夏の中では一番

ご覧の昆虫は言わずと知れた「カブトムシ」である。カブトムシは「クワガタムシ」と並び、子どもにとつては昆虫界の王様の存在である。小さい子どもから小学生高学年に絶大な人気を誇る昆虫である。幼いころ捕まえたりして遊んだ経験のある大人の方で、思わずにんまりしている御方もいるかと思う。かの私めもご多分に漏れず、子どものころ夢中になり、夏休みの宿題などそっちのけで、昆虫採取にのめり込んでいた。そのころ、自宅に「さつま床」というサツマイモの苗を育てる場所があり、苗を採ることがなく



▶ 鳩山の動植物 カブトムシ
(「カガネムシ科」)

なるとその場所の解体が行われた。腐食した木の葉の中ら思わず「葬式の引き出物のまんじゅう！」を思わせる物体が姿を見せる。「まんじゅうむし」と祖父から教わった。少し時間が経過してから、小学校の図書室で見た図鑑でこの物体の正体は判明した。あの「まんじゅうむし」の正体は「カブトムシ」の幼虫であったことに驚いた。

昔、私の祖母がカブトムシのことを「さいかち」と呼んでいた。夏休みの朝、お決まりの場所でカブトムシを捕まえて家に帰ると「今日もまたさいかちを捕ってきたのかい！」「ばあちゃん、カブトムシだよ」と返すと「さいかちだ」。これ以来、昔はこんな呼び名もあったのかと思っていた。昆虫を扱った江戸時代の本によると、関東地方では「さいかち」という樹木のトゲが、カブトムシの角の先に似ているのでそう呼んでいたらしい。しかし、その樹木を私はほとんど見たことがない。

カブトムシは日本では北海道以南にすみ、九州以南では亜種が見られる。北海道には人的に持ち込まれ繁殖しているそうである。クヌギやコナラから出る樹液に群がっている昆虫の中ではひと際大きく、オオスズメバチの毒針をもものともしない強さに、子どもたちはひかれるのだらうか。

(写真・高橋基／文・浅見勉)

人口と世帯

8月1日現在、()は対前月比

人口	14,776人	(-13)
男	7,304人	(-17)
女	7,472人	(+4)
世帯	5,801世帯	(+0)
7月の出生数	4人	

9月の納税・納付

- 国民健康保険税(普通徴収) (第3期)
- 介護保険料(普通徴収) (第3期)
- 後期高齢者医療保険料(普通徴収) (第3期)

●納期限を過ぎると、納付までの日数に応じて延滞金がかかります。納期限を過ぎないように、コンビニ納付や口座振替をご利用ください。

編集日記

▼今月号でお伝えしたとおり、8月は鳩山町でも夏祭りが開催されました。夏の風物詩の代表格とも言える、花火、浴衣、屋台、盆踊り、おみこしなどの要素が詰まったお祭りは、やはり夏の王様のような気がします。

ほかにも、夏の風物詩ではかき氷、スイカ割り、海やプール遊び、流しそうめんなどが思いつきますが、私が子どものころの記憶で強く残っているのは、肝だめしやテレビの怪談番組です。鳩山町にも林の中を歩ける道が多く存在していますが、真っ暗な林をただ歩くだけ、という単純な夏の一興は、その時期に流れる怪談番組の記憶とも相まって、今でも強烈な思い出です。

もの好き、と言われるかもしれませんが、恐怖心からとはいえ、通常は見えないものを生み出す「想像力」を鍛えるにはもってこいの遊び、と言うのは少しおかしな発想でしょうか。Ⓚ